

ス、其用法ハ液狀ニ於テ之ヲ用ユルナリ、ぱりた水ト稱スルモノハ水化ぱりうむ(又水酸化ぱりうむトモ云フ)ヲ蒸溜水ニ溶カシタルモノナリ、此液ヲ石面ニ施スニハ夏季ニ於テスルヲヨシトス、先足ニテ轆ヲ踏ミ空氣ヲ石面ニ吹付ケ、或ハ乾ケル刷毛ニテ塵埃及將ニ剥落セントセル石片ヲ取去ルベシ、次ニぱりた水ヲ其面ニ霧ノ如ク吹キ掛ク此際ニハ通常刷毛ヲ用キズ、兩三日間ヲ隔テ再三前記ニ同ジキ塗方ヲ爲シ、石面堅硬トナリ、刷毛ニテ之ヲ塗ルモ差支ナキ迄ニ到リテ止ム、或ハ庭園灌水用ノ如露ヲ用ユルヲ便トスルコトアリ。

建築外部ノ石材工事及内部ニテモ人工的ニ之ヲ温メザル場處ノ石面ニ此塗料ヲ塗ルニハ夏季ニ於テセザルベカラズ此塗料ハ粗質有孔ノ石材ニハ極メテ深ク滲入スルヲ以テ其塗方ハ數回之ヲ行フヲ要ス、平均一がろんノ液ニテ二拾平方碼ノ面上ヲ塗ルニ適ス、腐朽シタルぼーごらんご石等ハ其表面ニ皮ヲ生ズスカル場合ニハぱりた水ヲ用フル前ニ先此石皮ヲ取去ルベシ。

上記ノ液ヲ使用シテ起ル化學的變化ハ石材中ニ於ケル硫酸石灰即じぶさむノ一部分或ハ全部硫酸ばりたト水化石灰トニ變化スルナリ、而シテ此水化石灰ハ自然ニ炭酸石灰ニ變ズ、故ニ石材ノ全ク堅硬トナルハ此液ノ使用後數週間或ハ時トシテハ數月間ノ後ニ在リト知ルベシ、

○雜記

惟亭譯

○我國ノ大鐵橋

年頭ノ筆初「新年河」ニ緣アル鐵橋ニ就テ少シク書テ見ヨウソモ我國ニ於

ケル古キ鐵橋ハ道路用トシテ長崎ノ鐵橋(明治二年架設)、横濱ノ吉田橋(二年)、大阪ノ高麗橋(三年)、心齋橋(六年)、京町橋(九年)、長堀橋及戎橋(十年)、東京ノ彈正橋(十一年)等ニシテ皆ナ小鐵橋ノミナリシニ鐵道線路ノ建築ニ伴フテ大鐵橋ハ架設サレタリ即チ東海道線ノ下十三川橋、下神崎川橋及武庫川橋(七年)、桂川橋、上神崎川橋及上十三川橋(九年)、六郷川橋(十年等)ノ七十呎若クハ百呎徑間ナリシモ明治十五年ニ至リ幌内鐵道ノ豊平川橋ニ百五十呎徑間ヲ用ヒ全十八年ニハ日本鐵道ノ下利根川橋ニ二百呎徑間ヲ設ケ是ヨリ東海道線、信越線、日本鐵道線、關西線、北海道線等、大河ニハ専ラ二百呎徑間ヲ使ヒ近年ノ阪鶴線、北陸線、紀和線等ニハ二百五十呎徑間ヲ架シ終ニ京都線ノ保津川橋ハ二百八十呎徑間ヲ用ヒタリト雖モ多クハ外國人ノ手ニ成リシ者ニテ又タ本邦人ノ計畫セシ重ナル道路用ノ大鐵橋ハ東京ノ高橋十五年、吾妻橋二十年、鎧橋二十一年、大阪ノ天神橋及天滿橋二十一年、東京ノ御茶水橋二十四年、厩橋(二十六年)、永代橋(三十年)、兩國橋三十七年、群馬ノ利根橋及坂東橋(三十四年)、吾妻橋(三十七年)等ナリ而シテ徑間ノ大ナルハ群馬ノ鋼橋ヲ最長トス然ルニ斯ノ如キ大鋼橋モ僻地ニ偏在スル爲メ世人ノ耳目ニ觸ル、「寡キ」以テ茲ニ聊カ其大要ヲ紹介ス

利根橋及坂東橋ハ利根川ニ設ケ吾妻橋ハ支流吾妻川ニ架シタル者ナリ

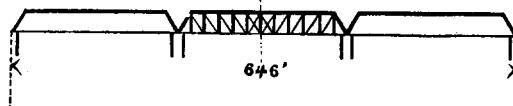
二月十日稿

群馬縣三大鐵橋概要表

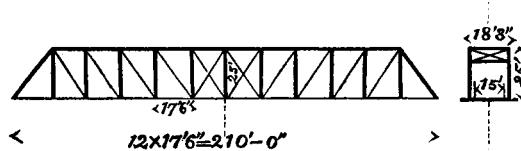
組シ寸法ハ呎及吋、重量ハ噸、工費ハ圓位ヲ以テ示ス

事 橋	利根橋	坂東橋	吾妻橋
項 長	六四六	六八八	二四五五

利根橋

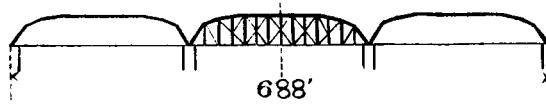


646'

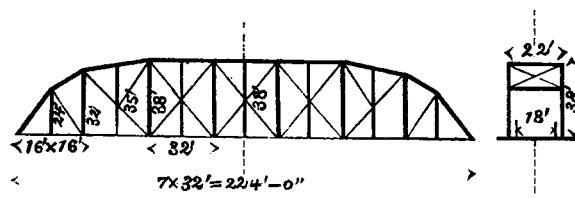


$$12 \times 17'6'' = 210'-0''$$

坂東橋

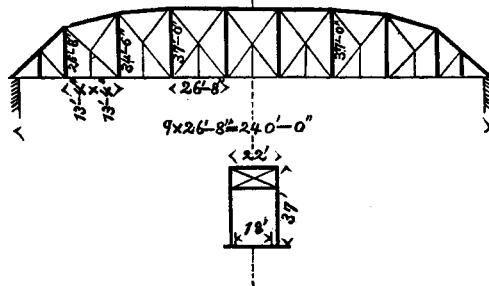


688'



$$7 \times 32' = 224'-0''$$

吾妻橋



$$9 \times 26'-8'' = 240'-0''$$

幅	形狀	幅	形狀	幅
徑間長	三	一五	ぶらつこ	一八
徑間數	二二〇	一八	べちつこ	一八
分格長	一一二	二四〇	べちつこ	一
分格數	一七六	二二四	一	
高	二〇四	九	一〇五	
橋脚寸法	二五〇	二六八	三七〇	
橋臺寸法	一八三	三三〇	三八〇	
橋圓井筒寸法	一七六	二二〇	二二〇	
鐵材總重量	一五〇	二七三	二七三	
幅	一五〇	一〇五	一〇五	
高厚 短長 高厚 徑徑	五一二六 一五〇〇 一三六〇〇	一三六六〇 一三三〇〇 一三二〇〇	一三六〇〇 一三三〇〇 一三二〇〇	一三六〇〇 一三三〇〇 一三二〇〇
工費	九〇、一四九	一二七、八三三	七三、五五一	
○新年祝賀 去一月本會ニ對シ賀意ヲ表セラレタル會員准會員其他ノ諸君左ノ如シ				
石田收君 伊藤常夫君 伊藤亮君 伊藤繼次郎君 乾慶藏君				
市來尚治君 篠多龍太郎君 濱田晴高君 橋本辰五郎君 西川虎吉君				
保科圭三郎君 小堺榮治君 太田歸一郎君 大深義介君 小野政精君				
小里智三郎君 沢内潔君 沢内潔君 冲尚之君 河合幾次君 勝又愛治郎君				